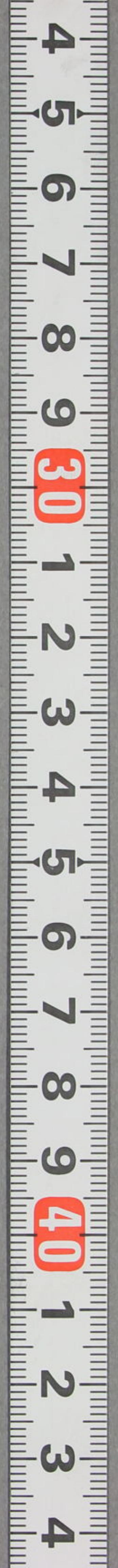


万亭應賀作

針履屋の図

7

~ 13  
3387  
7



13  
3387  
7

はる  
登

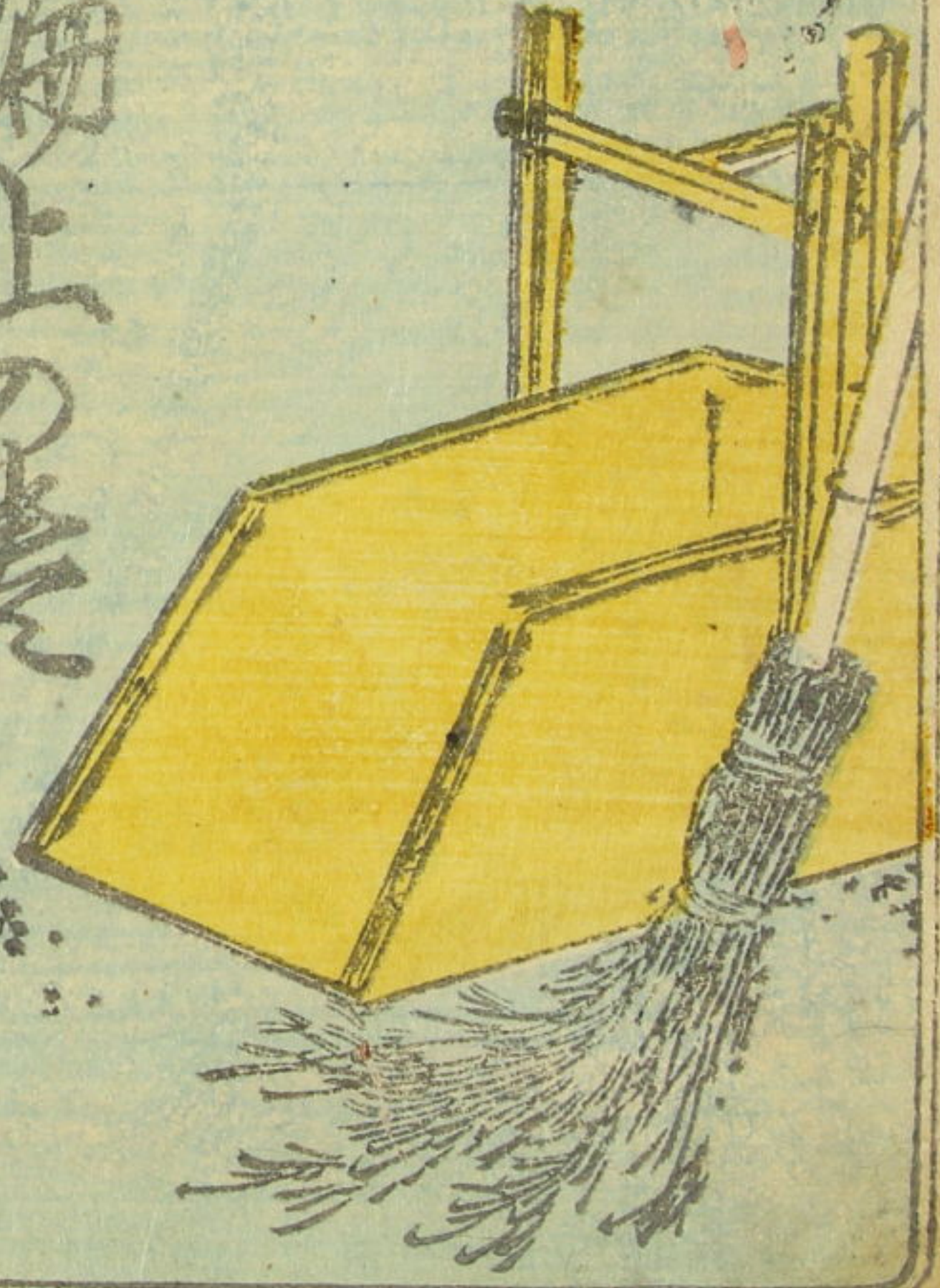
府無古

一字三編上の表

為亭作  
一壽齋

乙卯表

江戸の町包  
上見



昭和十八年  
六月二日  
小田村吉代  
長男友成  
代書贈

九  
一  
節

釋加八相倭文庫三拾三編

夫女の三十三歳の二三と云語因と

大尾年俗小稱

外小據

起と誌せど鬼子母の説り顕正論又鬼子母經及び寄歸傳並  
不陀羅尼集等皆異説る故其撮要を再載して吉祥果と  
石榴不比九色の鹿を青鶴と贅説過言識好ごうせ味以知奴  
が仏夜日良滅書の八百著漸出さるの賀でる唯笑談の序を  
飽て懐箇吞て煙草より咽み支る次編の永さ未君人是ら  
感尺要天竺まへも行程の道州双紙の拙きとあらで二十三  
編廻り伏侍と云ふ

嘉永八年  
乙卯新春

为亭應賀誌

倭文庫三十三



百三十三

此鳥集啼  
天下太平  
聖人出  
似て一足  
青鶴ハ八の翼ありて  
人の面を毛色  
雉の如く其  
声筆  
竹の  
葉の  
食ふと  
而後  
則先  
の如く  
人を捕  
る



妙頭まじりの長男ちやうせい  
圓満まじり足あし葉は又  
是鬼子母おにこもの夫おとこ  
佛ほとけ々の大おほき  
者ものハ二丈にじやう余あまあり  
て十じゆ鈎こう  
を員人いんにんの  
面おもてにに懸かへ  
る

釈迦

猫山

帝母

千の末子

嬪加羅

妹の妹

鈴

釋迦如來



大如來

圓満具足

一名 訶利帝母

鬼子母の妹

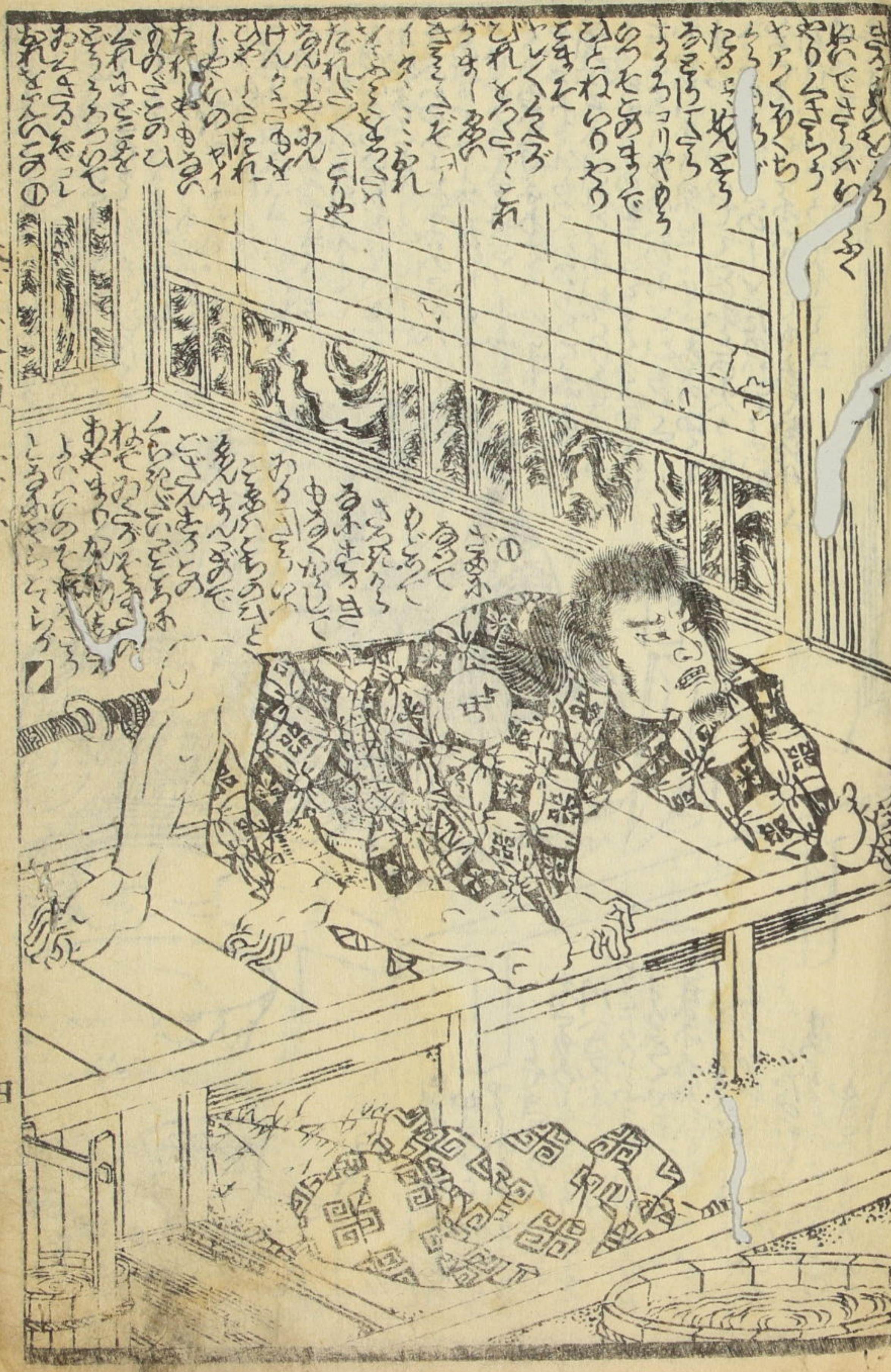
上臈



文庫三十三



鬼子母の妹  
六尼鉢



五月廿二日  
 水だうけさるよりのをくさくさけ  
 たいさくしるゝふんがてんりく  
 中とんばらんとくしひのり  
 一はたのりあつたふんがてんり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり

ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり

水田正三十一



五月廿二日  
 水だうけさるよりのをくさくさけ  
 たいさくしるゝふんがてんりく  
 中とんばらんとくしひのり  
 一はたのりあつたふんがてんり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり

ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり

ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり  
 ちんばらんとくしひのり  
 つかうさるふんがてんり





▲この鳥、  
 きかびらち  
 こせれそ  
 ひげい  
 あまき  
 ゆうげん  
 さまふら  
 りつて  
 けいりや  
 さうい  
 まごち  
 ようぎ  
 あまふら  
 さるま  
 けいりや  
 こりや  
 せいりや  
 せいりや

水虫の事



この鳥は、  
 けいりやの  
 さまふらに  
 せいりや  
 まごち  
 ようぎ  
 あまふら  
 さるま  
 けいりや  
 こりや  
 せいりや  
 せいりや

▲この鳥、  
 きかびらち  
 こせれそ  
 ひげい  
 あまき  
 ゆうげん  
 さまふら  
 りつて  
 けいりや  
 さうい  
 まごち  
 ようぎ  
 あまふら  
 さるま  
 けいりや  
 こりや  
 せいりや  
 せいりや



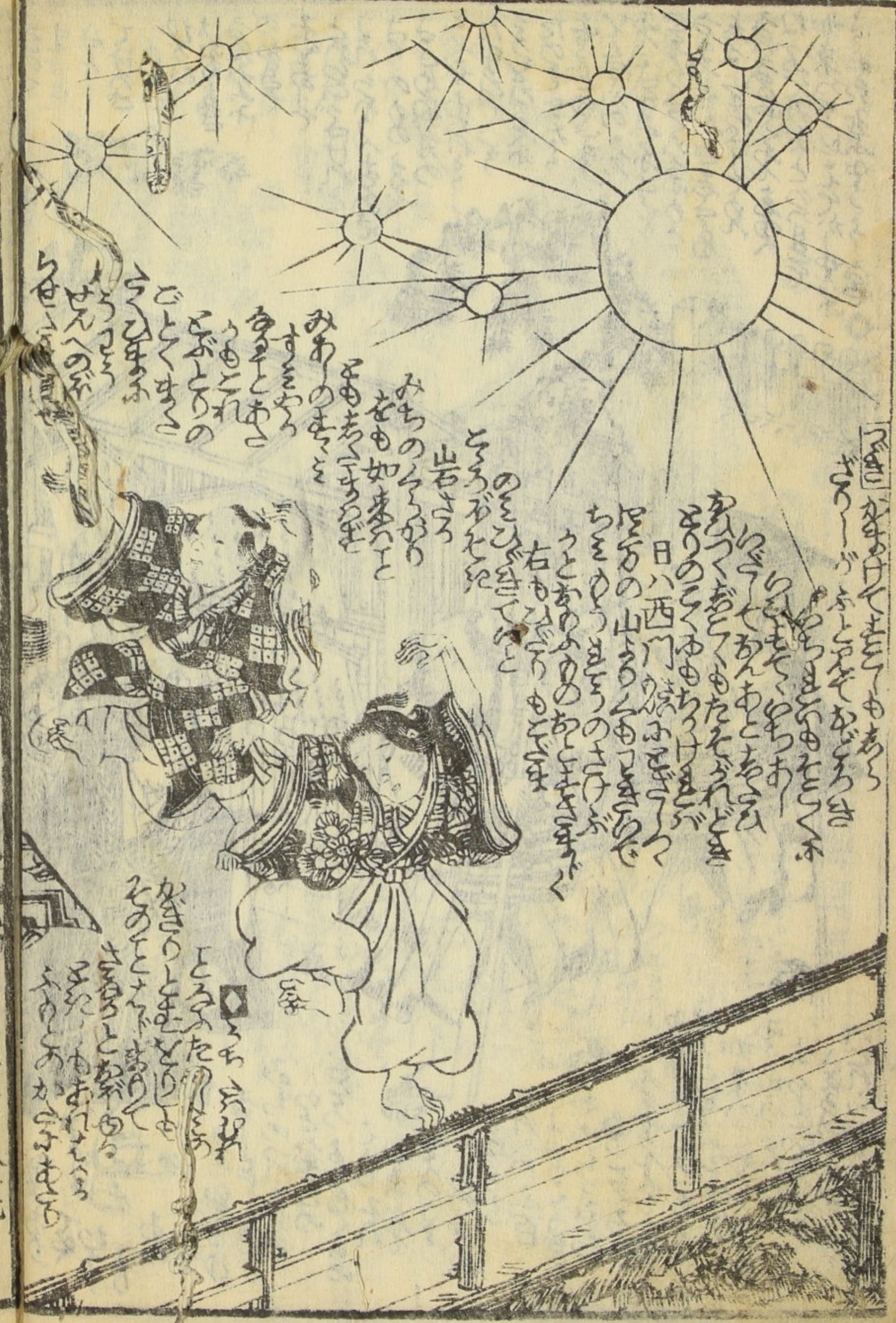
この鳥は、  
 けいりやの  
 さまふらに  
 せいりや  
 まごち  
 ようぎ  
 あまふら  
 さるま  
 けいりや  
 こりや  
 せいりや  
 せいりや



此比羅衛園領



此の物語は、  
 昔の昔、  
 山にありし  
 狐の物語なり  
 此の狐は、  
 人になりて  
 世にふるまふ  
 事ありしなり  
 此の狐は、  
 人になりて  
 世にふるまふ  
 事ありしなり

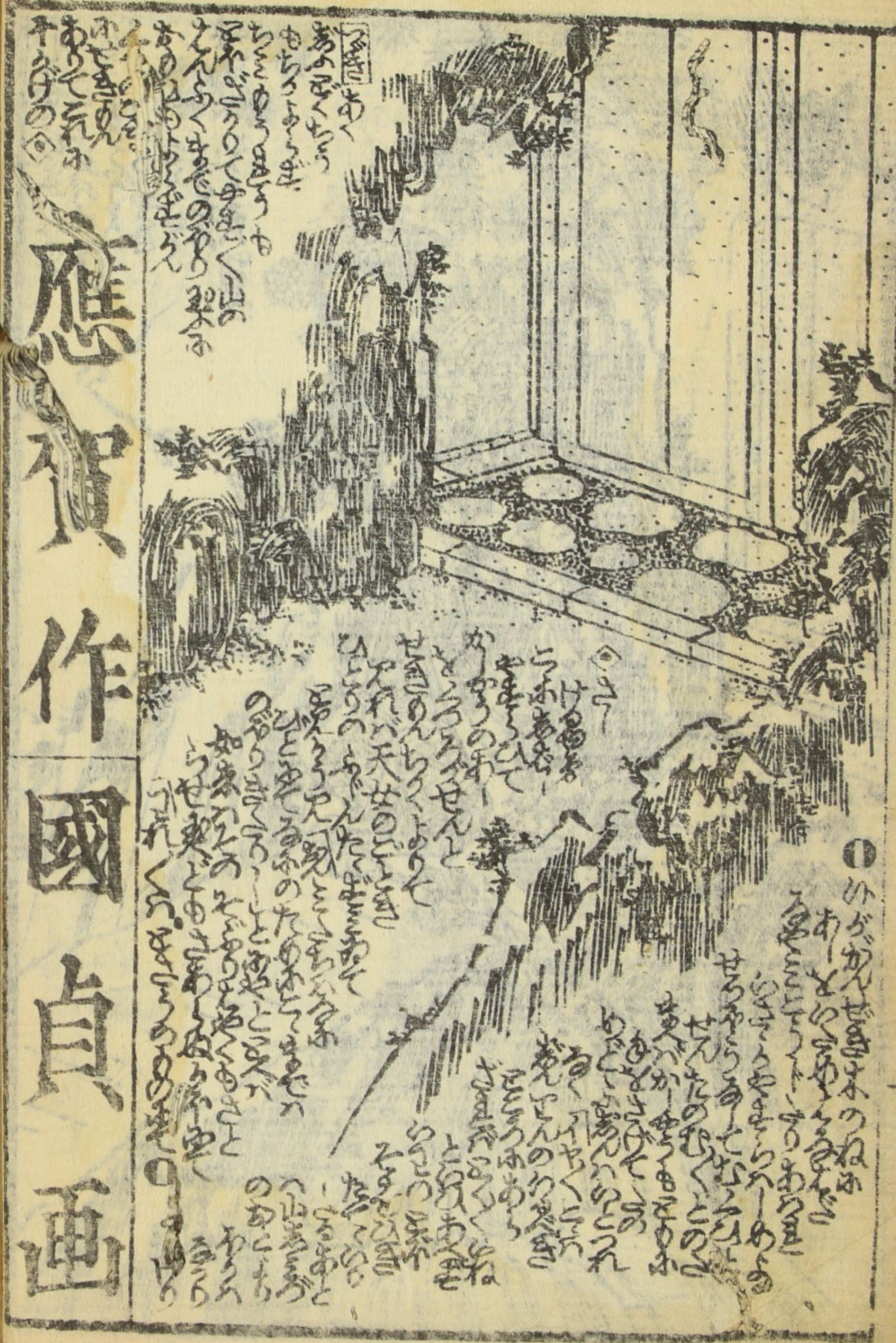


此の物語は、  
 昔の昔、  
 山にありし  
 狐の物語なり  
 此の狐は、  
 人になりて  
 世にふるまふ  
 事ありしなり  
 此の狐は、  
 人になりて  
 世にふるまふ  
 事ありしなり

此の物語は、  
 昔の昔、  
 山にありし  
 狐の物語なり  
 此の狐は、  
 人になりて  
 世にふるまふ  
 事ありしなり  
 此の狐は、  
 人になりて  
 世にふるまふ  
 事ありしなり

此の物語は、  
 昔の昔、  
 山にありし  
 狐の物語なり  
 此の狐は、  
 人になりて  
 世にふるまふ  
 事ありしなり  
 此の狐は、  
 人になりて  
 世にふるまふ  
 事ありしなり





# 應賀作國貞画

倭文庫出世双六

應賀作 豊國画

春の遊

將基双六

同作 貞房画

男女 役替双六

同作 同画

武家奉公出世双六

同作 豊國画

奥奉公出世双六

同作 同画

子寶延命袋

同作 同画

重榮御江戸繪圖

奉書四枚半の巻

大寶御江戸繪圖

極上奉書六枚半の巻

歌川國貞画



倭文庫三拾



下

庶賀作

國貞画

卯年

新得史



倭文庫三拾二編下卷

錦重堂梓

第一



Handwritten Japanese text in the upper left quadrant, including the title '倭文庫三拾二編下卷' and other notes.

倭文庫四十四編上

四





あはれなる御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども



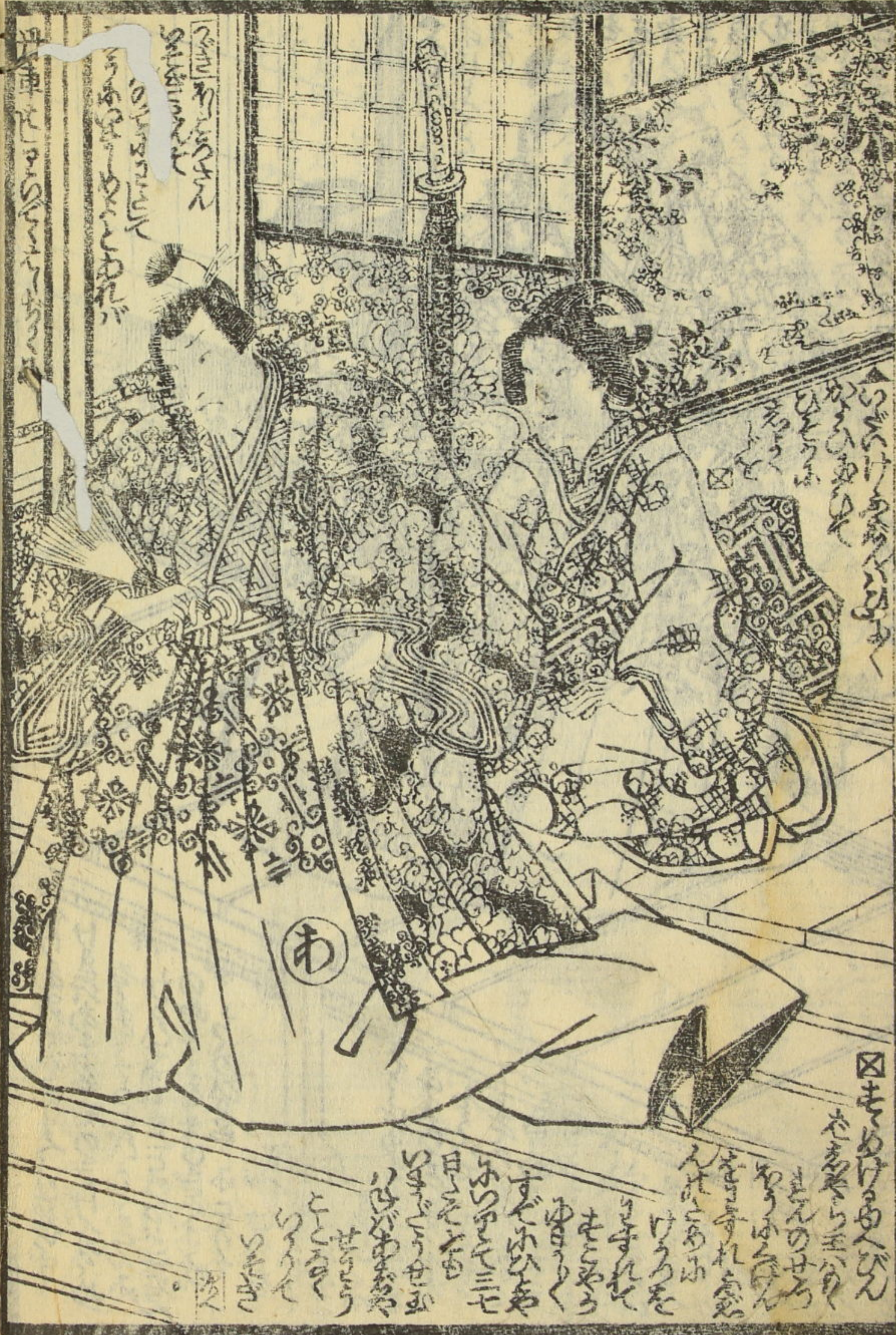
あはれなる御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども  
おぼつかた御座り候へども

作二原四一四

五

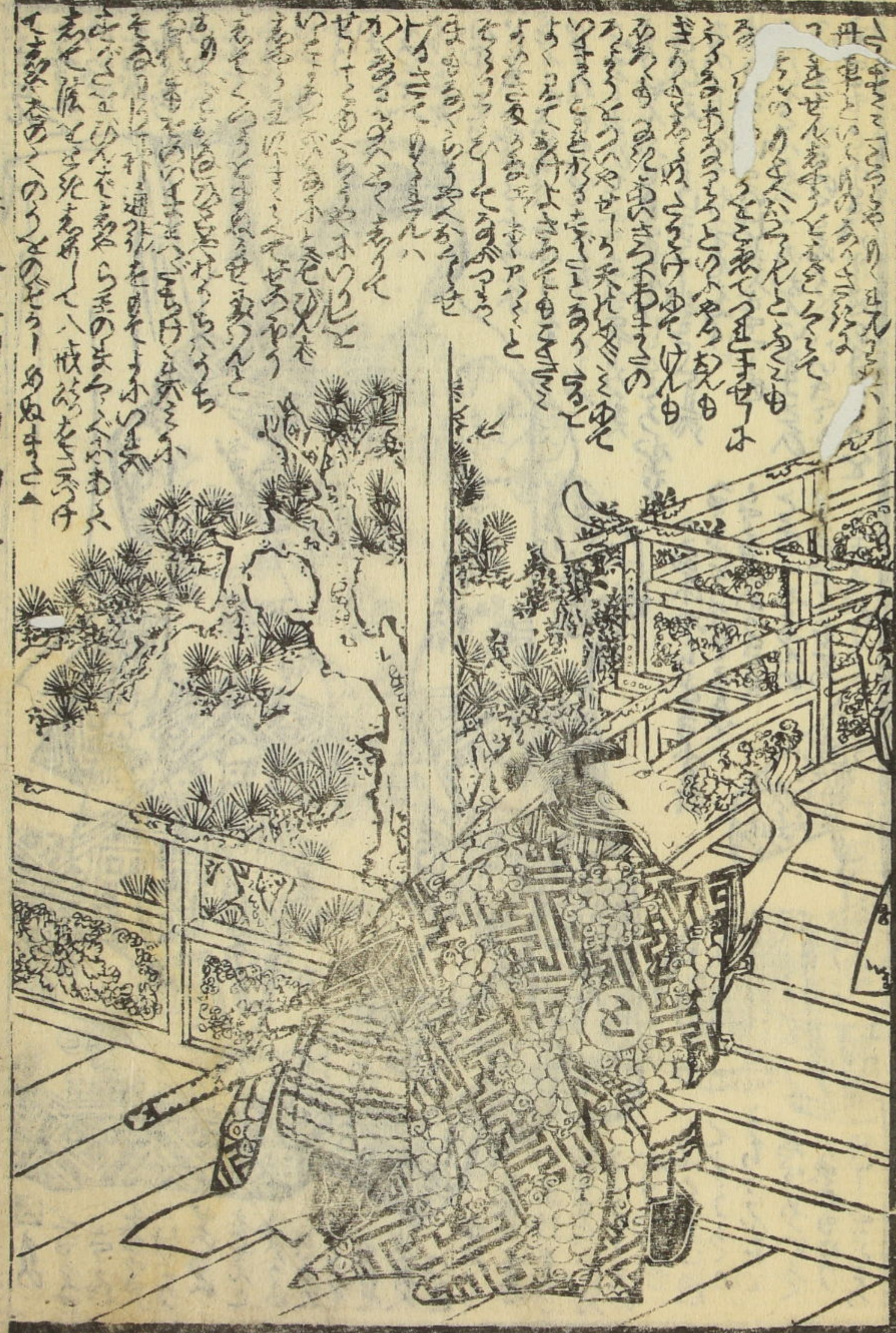






丹波の...  
 丹波の...  
 丹波の...

丹波の...  
 丹波の...  
 丹波の...



丹波の...  
 丹波の...  
 丹波の...





簡文庫以「四」終上

應賀作 國貞画

そのやいものを  
 西臣のやいものを  
 ありぞきけと  
 どもあけいり  
 つのいのけ  
 夫人を



深宮読ふ  
 その日  
 あり  
 のま  
 〇かま  
 貞房画



倭文庫出世双六

應賀作 豊國画

春の遊將棊双六

同作 貞房画

男女 榎合 役替 双六

同作 同画

武家奉公出世双六

同作 豊國画

奥奉公出世双六

同作 同画

子寶延命袋

同作 同画

重榮御江戸繪圖

奉書四枚半

大寶御江戸繪圖

極上摺奉書六枚半



川三